



小写真上／跳び箱を飛び越える子どもとそれを見つめる畠田さん。中／うしろ回りに挑戦している子どもたち。うまくできるかな。下／ほかの子の演技を声をかけながら応援する子どもたち。

右大写真／華麗な演技を披露する畠田さん。マット上を一気に駆け抜け、大きな歓声が上がった。



みんなもやればできる。悩むより、行動しよう。



Challenge
this month
HighLight
1
今月の注目

やるか、やらないか。

中川根南部小学校は、バルセロナオリンピック男子体操競技銅メダリストの畠田好章さんを招き、特別体育授業を開きました。

畠田さんがバック転などオリンピックで披露してきた技を実演する場面では、子どもたちから大きな歓声が上がりました。

子どもたちは「体操が楽しいと感じました」「今まで跳び箱8段が飛べなかったけど、飛べるようになりました」「畠田先生のように、今日から逆立ち歩きに挑戦したいです」など、感想を話していました。

畠田さんがバック転などオリンピックで披露してきた技を実演する場面では、子どもたちから大きな歓声が上がりました。

子どもたちは「体操が楽しいと感じました」「今まで跳び箱8段が飛べなかったけど、飛べるようになりました」「畠田先生のように、今日から逆立ち歩きに挑戦したいです」など、感想を話していました。

体操を楽しいと感じた子どもたち

実技指導では1・2・3年生がマット運動を、4・5・6年生は跳び箱に挑戦しました。

畠田さんは身ぶり手ぶりやお手本を見せ、ときには「手は手前につかない」「飛べなくてもはじめは台の上にもたがるだけでもいい」など、子どもたち一人一人に丁寧に指導しました。

「やるか、やらないか」だけ

始めからオリンピックに出たいと目標を掲げて挑んだわけではないと話す畠田さん。「わたしは体操をやりたいと思って始めただけ。決してオリンピックに出たいとかじゃなく単純に『やりたい』と思っただけです。それがきっかけ。みんなもやればできるんです。やるか、やらないかだけ。悩むより、行動してみてください」と、挑戦する大切さを児童に向け訴えました。

「やるか、やらないか」だけ

始めからオリンピックに出たいと目標を掲げて挑んだわけではないと話す畠田さん。「わたしは体操をやりたいと思って始めただけ。決してオリンピックに出たいとかじゃなく単純に『やりたい』と思っただけです。それがきっかけ。みんなもやればできるんです。やるか、やらないかだけ。悩むより、行動してみてください」と、挑戦する大切さを児童に向け訴えました。

実技指導に先立って開かれた講演。畠田さんは「わたしも本町と同じくらい山に近いところで生まれ育ちました。小学1年生のとき、学校で逆立ちする上級生を見て『自分もやってみよう』と思ったんです。練習を重ねて、やがて逆立ち歩きができるようになりました」と、自分の幼少時代をふり返り、話し始めました。

「そのころ学校に、今回の特別授業と同じように、徳島の体操クラブの講師が体育を教えるにきてくれました。講師に逆立ち歩きを見せたところ、体操クラブを見に来ないかと誘ってくれたんです。それが小学2年生のとき。わたしの体操競技人生の始まりでした。」

畠田好章…徳島県出身。元男子体操競技選手。徳島県立鳴門高等学校、日本体育大学・同大学院。バルセロナオリンピック男子体操競技団体総合銅メダリスト。



ここにも、一つの物語。広報かわねほんちよう